

仏陀伽耶

# 日本寺ニュースレター

～お釈迦様の聖地インド・ブッダガヤからのたより～  
平成20年度(仏暦2551年)第1号

発行：  
(財)国際仏教興隆協会  
Tel: 03(3711)7608  
Fax: 03(3711)7673  
E-mail: ibba@nifty.com

### (財)国際仏教興隆協会とは

仏恩報謝の目的をもって釈尊ご成道の聖地ブッダガヤの復興と護持によって仏教の国際興隆をはかるため、宗派の異同を超えて日本国内の伝統的仏教諸宗派総本山大本山が結集して結成。

昭和43年に文部大臣より財団法人の認可を受けた公益法人です。

### 印度山日本寺とは

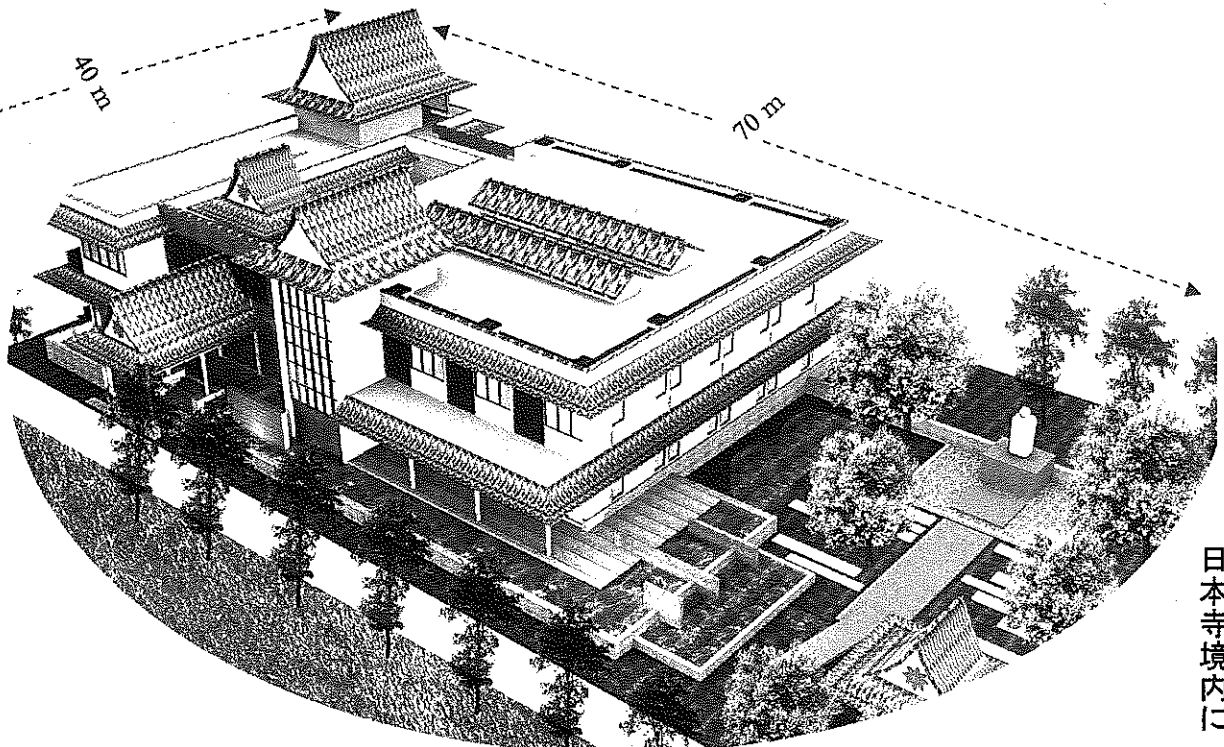
J.ネルー初代インド首相の提唱した、仏教による国際融和と平和の拠点づくり構想の参加委嘱を受け、(財)国際仏教興隆協会の事業としての日本寺をインド・ビハール州ブッダガヤに建立。現地の宗教福祉法人として、インド対象の様々な社会事業を展開しています。

釈尊ご成道の聖蹟護持と仏恩報謝の

# 新しい時代へ

印度山日本寺  
第3次事業  
はじまる

核にして  
日本寺附属仏教学東洋学研究所の建設を



インドで年々と昂まる日本仏教への学術的関心に応え  
日本寺境内に

仏教学東洋学研究所 (Institute of Buddhist and Oriental Studies) 完成予想図

ブッダガヤを訪れられた人たちは、まるでお釈迦様がつい今しがたこの道を通られた、今までそこにお座りになっていた…ような感じがした；と、しばしば話されます。

当協会の拠点・印度山日本寺に駐在し、はるか日本をはじめ、韓国、中国、モンゴル、マレーシアなどからブッダガヤに巡礼される方々に接しておりますと、国は違い国民性は違っても、皆さん様にそうおっしゃるのは、世界中何億人の仏教徒が、この地で成道されお悟りを得られたお釈迦様の御威徳に合掌し、五体投地し薫香を捧げられている御功德の賜物、まさにブッダガヤの土地の有り難さであり、聖地というものの有り難さに他なりません。

そのブッダガヤで仏教を学びたいという若者は多く、とりわけ仏教への篤い帰依信仰と、社会形態的にも仏教文化を背景としながら早くから自立に目覚め、高度な文化の成熟と経済発展まで成し遂げた日本への驚異と期待はしば\*

\*しば喧伝されるところですが、インド独立後60年たち、時代も21世紀に入り、さまざまな分野での成熟途上にある近年のインドでは、「仏教を学びたい」「アジアを、東洋を学びたい」という機運が満ち満ちています。

当協会は、こうした機運と、インドの政・官・学界あげての日本寺に対する要望に応えるべく、まずその先陣としての図書館計画など、状況整備と準備を進めてまいりましたが、昨年一昨年と数次にわたる理事会・評議員会審議と協議を経て、このほど印度山日本寺境内に文庫型の研究施設「印度山日本寺附属・仏教学東洋学研究所」を建設する議が整いました。すでに設計も最終段階に入り、現地関係官庁への申請審査の段階に入っています。当協会からは、その有効利用も併せ、皆様からの様々なかたちで皆様のご支援を頂かねばなりません。別途用意の資料などご照覧賜りますようお願い致します。



## 印度山日本寺第三次事業趣意書

謹啓

平素は、印度山日本寺と運営母体であります財団法人国際仏教興隆協会に対し、護持発展にご支援ご助力を賜りますこと誠に有り難く、謹んで感謝申し上げます。

お陰様にて印度山日本寺事業の維持、中心的な事業であります光明施療院の無料医療奉仕および菩提樹学園の無料保育など宗教的福祉事業遂行もつつがなく運営できますことを重ねて厚く御礼申し上げます。

当財団が聖跡ブッダガヤの復興護持を發願して、日本の宗派を超えた仏教関係者によって設立されて以来40年、各宗派、ご寺院仏教徒が総力を結集しての印度山日本寺の建立以来35年に及ぶ今日まで、印度山日本寺は「釈尊御成道」の聖跡復興の先駆けとして名実ともにブッダガヤの仏教社会を指導してまいりました。

そして先ごろ、ご承知のように世界遺産ブッダガヤ大菩提寺の威風に臨むことが叶いましたのも、皆様の不断のご支援の賜物と、心より感謝申し上げる次第です。

顧みますれば昭和43年の日本寺建設用地の取得時には、ブッダガヤは荒れ果て、大菩提寺大塔には垣根門塙などもなく、見渡す限りの広い荒野にわずかにタイ王立寺とビルマ国立寺が点在するのみでありました。

然るに、現在のブッダガヤの隆盛を見、印度山日本寺の各事業の無事進捗がありますのも、ひとえに当初の先達大徳尊師の盤石の計画と「信」「行」相まっつの行動力の結集のたまものに外なりません。その故にこそ私ども後塵を拝します仏教徒にとっての責務は、この貴重な賜りものを維持・発展させることによって、次世代にその精神を共に伝承して行くことに尽きると存じます。

斯様な努めを拝承した印度山日本寺・財団法人国際仏教興隆協会の現況は、日本寺事業についての当初計画のうち、第一次事業「宿坊・本堂」の建設、第二次事業「宗教的福祉事業施設・菩提樹学園と光明施療院」の建設を成してまいりました。

そして21世紀を迎え、より国際的な時代を鑑みたる第三次事業として、初代理事長であり当協会の事業発動の礎を築かれた祐天寺巖谷勝雄師が提唱され、また関係者総員の願望でもありました「国際仏教学研究所と付属図書館」、「国際僧堂・禅、瞑想施設」は、四半世紀にわたって実現することなく経過してまいりました。

しかしながら、ここ数年來の印度山日本寺は、年々日本人のみならず各国の若年層を中心に参禅者が増加の一途を辿っております。そうした現象への必然に加え、現地仏教界の強い要望として、仏教聖典、仏教書などの学究的・書誌資料具備の施設の常備が重要となってまいりました。特に現今のインドのみならず、欧米はじめ世界の学界注目のテーマであります「日本学」を通しての仏教文化研究を背景に、アジア全体をカバーする「日本学・東洋学研究施設」の建設が、現地インド側学界・公機関より当協会・印度山日本寺に対して要望され、現在に至っております。

更にブッダガヤ地域社会において次代を担う多くの俊英を輩出し続けています児童教育施設の根幹の地位を確立した菩提樹学園も、開園以来30年間ひたすらインド社会の要求に応えるべく努力を重ねてまいりました。

とは申せ、施設の狭隘と教育環境を考えた時に教育の効力を十分に發揮できない現状を考えました時に、抜本的に未来を考えた近代指向の施設の拡充を願うものです。

併せて1984年に開院された「光明施療院」は、24年間に亘って恵まれない地域社会の住民80有余万人の患者に対して連日の施薬と治療奉仕に努めてまいりました。その結果、地域医療に不可欠な医療機関となり、これを支えるのは少ない医療従事者の献身的な努力に加え開院時からの建築施設の暗く狭い老朽化した施設や医療器具備品を当初より大切に使用してきた結果に外なりません。

しかしながら、医療施設としての「光明施療院」は、もはやあらゆる面から既に限界の域にあり、いまや近代化を目指し大改造の時と考えます。

以上の現状要望を満たすために、財団法人国際仏教興隆協会理事会及び評議員会は、平成19年2月の役員総会において上記施設の建設計画を根幹とした「印度山日本寺第三次事業」を協議議決いたしました。

僥倖にも、当協会の運営する印度山日本寺の事業および本事業に対し現地行政府の温かい理解と協力を約されたところから世界仏教徒連盟(WFB)による協力申し出もあり、当財団設立40周年の先般2008年2月(当財団設立40周年)、WFB会長による訪問団が組織され、現地行政府高官も出席、ブッダガヤ隣山諸国寺院代表比丘僧侶合同による国際法要の形式によりブッダガヤ印度山日本寺において定礎石奉安法要を厳修することができました。

恰も、第3次事業建設予定地の日本寺敷地の租借契約更新の時期2011年(平成22年)は、ブッダ釈尊ご成道2600年に当たりますところから、ブッダガヤの護持復興を本旨と致します当協会・印度山日本寺にとって望外の好機にあったことと相成ります。

斯様にして、このたび印度山日本寺第三次事業実行委員会を組織し当事業推進に向けて行動を起こすこととなった次第であります。

有縁各位におかれましては、是非ともこの事業にご参画頂きまして、事業資金確保のために募財の御協力のご厚志を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

なお、資料相覧その他、関与の事務次第等につきましては別してのご案内とさせていただきます。

何とぞご理解ご賛同のご厚誼を賜りますよう、粗辞ながらお願い申し上げます。 合掌。

平成20年4月1日

財団法人 国際仏教興隆協会

理事長 安田 暎胤

印度山日本寺第三次事業実行委員長

山田 一真



## 財団法人 国際仏教興隆協会・印度山日本寺附属 仏教学東洋学研究所(IBOS)建設計画のあらまし

### 建設場所

インド・ビハール州ガヤ県ブッダガヤ管区  
財団法人・国際仏教興隆協会  
印度山日本寺(Japanese Temple Bodhgaya)敷地内

### 土地所有の形態

日本の財団法人である国際仏教興隆協会に対するビハール州政府よりの貸与地

**建造物建坪面積:** 約3,000㎡ (900坪余)

**建物の形状:** 総2階・一部3階建て。

**設計:** MR. Idanont Thaiarry 建築士(米国免許)/タイ国バンコク市在住

**監理:** Thaiarry Management Co., Ltd/タイ国バンコク市

**施工:** 未定

### 【I】事業の概要

#### 1. 学術・研究面の事業

- A. 多方面にわたる「日本学」の興隆
- B. 人文科学・社会科学分野での研究環境と資料の提供  
各種学術イベント開催、他研究機関や諸大学との連携
- C. 研究者および学生一般を対象とする宗教学、比較文化学、歴史学、言語学、芸術(とりわけ仏教美術、古美術)、社会学各分野、博物学、世界各フィールドの宗教学等；諸分野フォーラムの開催
- D. 世界各国と地域から著名の学者を招いての特別講義の開催と、IBOS在籍学究への指導と教授
- E. 奨学金、研究員ポストの設定および著しい学術成果に対する表彰と栄誉の授与
- F. 功績を挙げた者への褒賞、名誉学位の授与

#### 2. 出版

- A. 仏教分野での批評・評論出版、翻訳刊行を含む近・現代の学術業績ならびに論考の出版。パーリー語・チベット語・サンスクリット・中国語・日本語その他あらゆる言語からの大蔵經典の翻訳。
- B. 前項2のCに謂う関連各分野のオリジナルテキスト、仏教分野での専門的研究成果、関連業績、典籍等の編集と出版。
- C. 仏教の興隆と仏教学研究への貢献を旨とする定期ジャーナルの刊行

#### 3. 会議・学術会議・セミナー

- A. 国際学術会議、内国学術会議、関連会議、セミナー、ワークショップ；の開催

#### 4. 特設メディテーション講座および言語学コース

- A. 教説伝授を伴う禅指導コース
- B. サンスクリット語、パーリー語、その他アジア諸語の短期講座、夏期講座、

#### 5. 地域社会開発プログラム、

- A. 地元地域市民・住民を対象としての教養育成を目指す；識字、家政、保健衛生、工芸、手芸、工作など近隣村落市民生活のレベル向上をめざす各種成人学級の開催と機会を捉えての関連イベントの開催

### 【II】図書館業務と文書・古文書保管

#### 図書館セクション

所蔵する仏教書の学術目的、学習目的のための利用供与を基本とするものの、学者・研究者・学生たちの利便に偏重せず、図書館開設目的のひとつである地域住民の知的育成に供する観点から、広範な分野にわたる書籍・機関誌紙、ジャーナル等を蔵書・購読し、供覧する。かかるコンセプトを踏まえ、蔵書内容は、古代・古典から今日の現代の文化にまで及ばせる。図書館にはコンピューターを導入してデータベース・セクションを備え、蔵書検索や一部稀少資料などのデジタル閲覧を可能にするとともにインターネット導入により国外を含む外部の図書館・研究機関・大学等とのリンク構築によって、より充実した図書館環境を整える。

#### 典籍セクション

日本寺の品格保持の後ろ盾として、望むらくは日本各地の寺院所蔵の典籍・古文書類の原本や複製本や精細コピーなどの提供を仰ぎ、公開利用と所蔵保存には最新の近代的方策を施す。

#### 文化活動

言及するまでもなく、図書館セクションと典籍セクションは研究所活動の主軸であるが、もとより書齋固執は目的ではない。何よりもブッダガヤに存在する印度山日本寺建立の主眼は、聖跡ブッダガヤの興隆と地域社会の福祉向上をめざしての仏恩報謝の実践であり、この精神を踏まえての地域社会の知育環境向上の実践の方途として、所蔵典籍類の展覧会などを開催するほか、現実的に親しみやすい様々な文化プログラム；生け花、書道、絵画、工芸の講習会や伝習のクラス、ワークショップ；等を開くなど、地域住民の知的覚醒への寄与をめざした活動を活発に展開する。

#### 建物・設備

- A. IBOSの構成は図書館セクション・典籍セクション・研究セクション；で構成される。

#### 【1階】

1. 図書室、閲覧室
2. 講義室：3(図書室に隣接し、禅クラス、言語クラス、書道クラス；などに使用)
3. レファレンス室：図書室に隣接し、司書管理下にコンピューターを設備
4. 児童読書室：一般図書室の一面に設け、成人読書者・研究者からの感化をめざす。
5. 手洗い所：男女別トイレット/各4人用

#### 【2階】

1. 典籍セクションは最低6セクションに分け、南アジア、北アジア、西アジア、中央アジア、東南アジア、西欧、アメリカ仏教；などの諸セクションに区分け。
2. 独立した研究室書齋10部屋(コンピューター&インターネット完備)=レジデント用：7部屋 客員用：3部屋
3. 共同使用の教員室：1
4. 手洗い所：男女別トイレット/各4人用
- B. 会議場—既存の講堂を使用
- C. 研究者宿舎設備—日本寺境内に既存の国際仏教会館を使用



## 元官房長官 & 元財務大臣 塩川正十郎先生が 当会名誉会長にご就任 本年4月から

このほど当協会は、塩川正十郎先生に本年4月1日付けをもって名誉会長にご就任いただきました。

ご存知のように塩川先生は衆議院議員当選11回。運輸大臣、文部大臣、内閣官房長官、自治大臣。国家公安委員長、財務大臣など、閣僚として歴代の内閣成立に欠かせない重鎮であられたと同時に、歯に衣着ない御直言をもっての政府・国会・財界へのご意見番として、今の日本を導いておいでのお方ですが、当協会・安田暎胤理事長の内意打診に、事情状況を既によくご存知の上で快く名誉会長をお引き受け下さったお懐の深さには、只々感激、謹襟三拝の思いでありました。

このご内諾を受け、当協会執行部は本年3月13日開催87回理事会に財団『寄付行為』第25条に基づく議案を上程、満場一致の議決をもって塩川先生推戴の運びとなったものであります。政界からは当協会設立時の大野伴睦先生、迫水久常先生(副会長)、賀屋興宣先生、村上勇(副会長)先生に続く会長(のちに定款により名誉会長)職にご就任です。



すでに塩川先生からは協会の隆盛へのご尽力の趣と、その実際について現実的かつ様々な啓示やアイデア提示を頂いておりますが、何よりも先生ほどに左右主義主張を超えて全国民に敬愛されるお方を当協会トップに戴けたことは心強い限りです。

謹んでご報告申し上げます。

### 塩川正十郎先生ご経歴

1921(大正10)年10月13日大阪府生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。64(昭和39)年に布施(現東大阪)市助役兼3市合併事務局長。67(昭和42)年衆議院議員初当選。以後当選11回。

運輸大臣、文部大臣、内閣官房長官、自治大臣・国家公安委員会委員長、自由民主党憲法調査会長、税制調査会長、総務会長等を歴任。2001(平成13)年、第1次小泉内閣誕生とともに財務大臣就任。03(平成15)年10月政界引退ののち東洋大学総長に就任、現職。関西棋院理事長(現職)、東大阪市名誉市民、日本相撲協会運営審議会委員、自由国民会議代表、など。

## 役員会報告

今年12月の、いわゆる公益法人改革新法の施行を控えて、民法34条による財団法人としては最後の年となる平成20年度の事業計画および予算案を審議する第85回評議員会ならびに第87回理事会は、過般平成20年3月13日に増上寺会館会館においてそれぞれ開催されました。

両会議とも、会議では通常の議案審議に続き、とりわけこのたびの役員会は印度山日本寺の中興事業と目される「印度山日本寺第3次事業計画」を重点的に審議、活発な討議検討を重ねた結果、ともに満場一致の議決により同事業の推進を決議し、議決のあらまは以下の通りです。

### 第85回評議員会議事(議長：高山久照評議員)

- 議案第1号：平成19年度歳入歳出補正予算案審議の件
- 議案第2号：平成20年度事業計画案審議の件
- 議案第3号：平成20年度歳入歳出予算案審議の件
- 追加議案第1号：補任理事1名選任の件
- 追加議案第2号：役員就任理事1名の交替に承認を求める件
- 協議案件：公益法人改革法令内容の説明と順法指針についての協議

### 第87回理事会議事(議長：安田暎胤理事長)

- 議案第1号：平成19年度歳入歳出補正予算案審議の件
- 議案第2号：平成20年度事業計画案審議の件
- 議案第3号：平成20年度歳入歳出予算案審議の件
- 議案第4号：任期满了に伴う顧問・参与；選任の件
- 追加議案第1号：名誉会長推戴の件
- 協議案件：公益法人改革法令内容の説明と順法指針についての協議

それぞれの会議において以上の諸案件を協議、すべての議案において活発な討議と審議を重ね、それぞれ重厚な議決内容を含めての議決がなされています。

議決内容の詳述は省略させていただきますが、今回の役員会では、公益法人改革新法の施行に伴い、会計処理技術上に生じた補正予算案、および前述した「印度山日本寺第3次事業計画」の実施議決により、大型勧募事業の実施が議決されたことが平年の法人運営と異なって特筆される会議でした。

また新たに施行される公益法人改革新法への遵法つまり施行された新法に従っての多様な組織改革手順や法人規約の改定等を伴う遵法作業の進め方については、法令の指針が多岐多様かつ複雑重層的であるため、まず弁護士・公認会計士等、法律解釈の専門家の指導を仰いでの素案策定をめざすべき…との決議がなされました。



ブッダガヤの「開発」が急ピッチで進んでいる。開発マスタープランがUNESCOのお墨付きを得た2002年に尼蓮禅河添いに建設中をはじめたブッダガヤ区役所、総合診療所、コミュニティ・センター、総合旅客センターなどは依然として着手時から殆ど工事が進んでいないが、土地収用や公機関による土地買収などは急ピッチで進められている。



→ 聞いている。そのいっぽうで、チュンナイ(旧マドラス)からナーガルジュナコンダを経てランチー廻りガヤ經由サルナートを結ぶ鉄道建設は、現在ダウンケシュリー(前正覚山)の手前まで線路敷設が済んでいるものの、架線工事は手着かず、ダウンケシュリー・ブッダガヤ駅の計画も、計画地がすでに民間開発され、大規模な教育施設寄宿舎などがオープンしたことで頓挫したまま。背景には5年前に政権交代した州政府と、それに微妙にリンクする中央政府の、それぞれに色合いの異なる政党地図があり、近づく選挙への思惑がある。

ともあれ、一般市民はこうして競争して開発してくれるガヤもブッダガヤも便利になり、地価が高騰することには歓迎の姿勢が見える。仏跡としてのブッダガヤを慕うわれわれには、苦しい遠景である。



新名所としていまや世界中に名高いブッダガヤ税関。写真右手の見えない位置から叫ぶ出迎え者のアドバイスが時々の通関の妨げになり、あるいは教員になってとにかくライトに束縛したと同様の時間が掛る。

↑バンコクから2時間で来られるガヤ。空港は仏跡ブッダガヤを身近にした。

## 日本では 公益法人改革が進行 当協会もその枠内に

第2次大戦後すぐに日本で唱えられだした「構造改革」ということばは、出どころがML主義階級闘争世界の術語であったため、日本では半世紀ものあいだ敬して遠避けられていた感があった。

しかし、21世紀に入り、そこに「聖域なき」という添前句が加えられ、俄然として耳触りが改善されると、まず何はともあれ「公益法人改革」は日本社会の共同目標らしい共感を得ることができて、「改革」は既に一昨年・平成18年4月1日付け施行の法律によって着手された。

昭和43年に文部大臣(当時)の認可を受けて発足した当財団・国際仏教興隆協会も「改革」すべき位置にあり、法律によって『こう改革せよ』という一律の指針が示されているので、目標ははっきりしているものの、問題は、その目標に現況をどう適合させるのか?の課題への対応である。

当協会の事業の公益性については、いささか自負できるものとの信念があるが、日本とはまったく社会背景の異なるインドのブッダガヤという辺境で、異なる社会形態や異なる文化形態から生まれる異なった思考方法に対

等の立場から真剣に宗教福祉事業を進める当協会・印度山日本寺を、「公益法人改革日本人コーラス」の声域に編入して貰うには、よほどの知恵を絞らなければならない。

この法律への遵法は日本の公益法人の義務であり、遵法対応しなければ当然に解散を迫られるため、対応は必須。当協会は、改革のポイントとされる「官庁からの天下り」や「家族・親等内役員数の寡占」などとは無縁だが、高いハードルの一つに「不特定多数への公益性の供与」がある。つまり、「このの、こういう人たちを助けたい」というふうな目標を定めるのでなく、この法律の施行国の日本国内の不特定多数を対象とした公益というカテゴリーで何ができるか? 関係各位のご助力ご助言を頂きたいところである。

どういう業態での「改革」が可能か? 法律、政令、閣議決定公告等掲載の政府・総務省の公益法人改革推進本部ホームページ [http://www.gyokaku.go.jp/about/index\\_koueki.html](http://www.gyokaku.go.jp/about/index_koueki.html) をご覧下さってのご一考と、さまざまなかたちでのご支援とご協力を頂ければ幸いである。



# 定礎石奉安法要を厳修

ブッダガヤ印度山日本寺第3次事業(第1面参照)の要となる印度山日本寺附属・仏教学東洋学研究所 Institute of Buddhist and Oriental Studies=IBOS の鉄入れ式ならびに定礎石奉安法要が、ブッダガヤを管轄するビハール州の総督R. S. ガワイ閣下を主賓に、この事業のパートナーであるWFB(世界仏教徒連盟)からファン・ワンナメッテ会長代理としてファロップ・タイアリー事務局長、A.Rキドワイハリヤナ州総督を来賓に迎え、地元ガヤ県行政長官はじめ高官貴賓も陪席、ブッダガヤ所在の各国隣山寺院から大勢の比丘僧侶出仕のもとに、去る2月19日に印度山日本寺境内の同研究所建設予定地および日本寺本堂において執行された。

日本からは  
ホストである  
当協会・安田  
暎胤理事長お  
よび当協会現  
地法人格の代  
表者の巖谷勝  
正理事長はじ  
め事務局役員  
そして法要導  
師として山田  
一眞印度山日  
本寺第3次事  
業実行委員長



当日は、主賓のガワイ総督、キドワイ総督ともにそれぞれの総督専用機でガヤ空港に到着、儀仗を整えた車列を組み、赤色灯にサイレンを鳴らした車で日本寺に到着するのを手に手にインド・日本・タイの小旗を↓

が出張渡印のほか、(社)日本仏教保育協会から高山久照事務局長、(社)全日本仏教婦人連盟から末廣久美副会長ならびに林恵智子事務局長らが参列された。

現地では久しぶりの大型イベントに日本なら県知事にあたるジテンドラ・スリヴァスタ/ガヤ県行政長官が極度に緊張、会場となる日本寺の下見から始まって日本寺に対して次々と繰り出す各種問い合わせや注文づけ、オブジェクション等の連発に、日本寺駐在僧たちはキリキ

リ舞いをさせられたが、とにかく無事にこの式典を運びたいのは行政長官も同様で、当日の貴賓高官の来賓に備えて乏しい県財政の中から日本寺正門前道路の舗装工事を施してくれた。



前列右からキドワイ総督、山田一眞導師、巖谷勝正インド国際仏教興隆協会理事長、後列左から佐藤良純・大正大学名誉教授、高山久照・日本仏教保育協会事務局長、WFB事務総長ファロップ氏夫人、東京台東区蔵前の樞寺住職の日比野尼；その右は一般の見物者たち



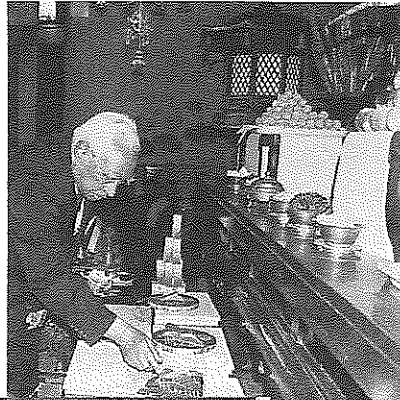
山田一眞導師の法式執行の中を鉄入れを行う主賓のビハール州総督R・S・ガワイ氏。州最高位高官である同氏が土を起す作業にはインド側から嫉念が呈されたが同総督は快諾された。

→振って整列した菩提樹学園園児たちが出迎える中を鉄入れ式現場まで車で進み、鉄入れ開始。山田一眞導師が作法次第を進め日本僧衆が誦経する中をまず施主である当協会を代表して安田理事長が注連縄御幣の結界に入り先導して鉄入れ、続いてガワイ総督、キドワイ総督、ワンナメッテWFB会長(代理)、現地法人の巖谷理事長の順で作法を進めた。インドでは目近に接することの珍しい日本密教の洒水法式の神秘さと折からの晴天に大傘の赤さ、御幣の白と、短時間ながら華麗と荘厳の式典進行に周囲の群集が息をつめ見守り感嘆のどよめきの中に新聞記者のシャッター音が連続して響いていた。



# 東洋学仏教学研究研究所(IBOS)

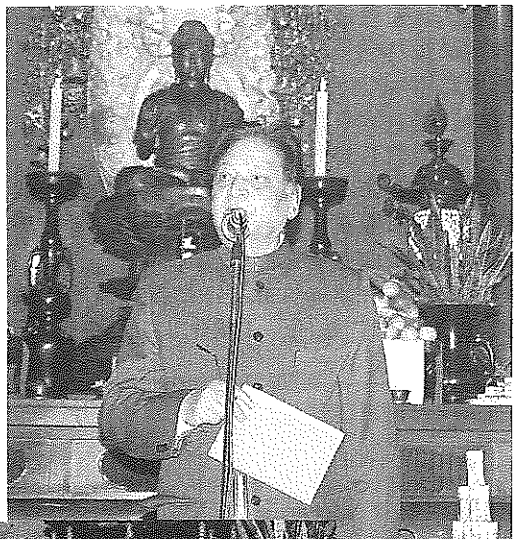
鍬入れ式の後本堂に移動して定礎石の宝前奉安法要。まず隣山寺院より随喜の各国僧侶比丘衆が山田一眞導師が宝前蜜壇で洒水加持祈祷の法要を執り行う中鍬入れを終えた夫々の方々が建設される仏教学研究研究所の土台に嵌入するコーナーストーン(定礎石)の奉安法要を行い、法要後はそれぞれの祝辞・挨拶。決意表明、表白という式次第で進行、すべての法要\*



\*と式典を終えた後、菩提樹学園、光明施療院など日本寺の宗教福祉事業の現場を視察したのち、日本寺会館での昼餐会と進み、一同円満笑顔のうちにすべてのプログラムを無事に終えた。



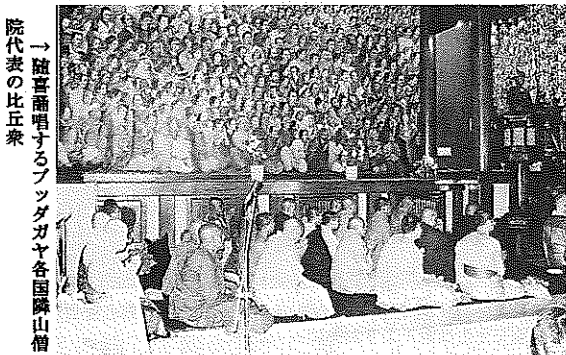
↑定礎石を宝前に奉献するハリヤナ州総督A R キドワイ閣下  
のフアロップ・タイアリー事務総長 ←



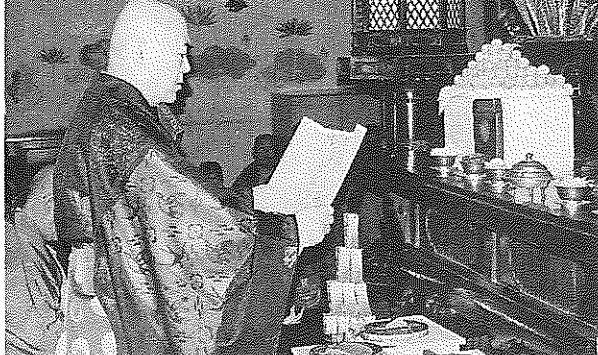
← 研究所建設とその事業抱負はこの困難の時代に東洋の英知発露の里程碑として激励の祝辞を述べられたガワイ総督。←



→ 当協会の現地法人常務理事としての立場から研究所建設の意義と世界平和・民族宗教融和への貢献の決意を述べるキドワイ総督。



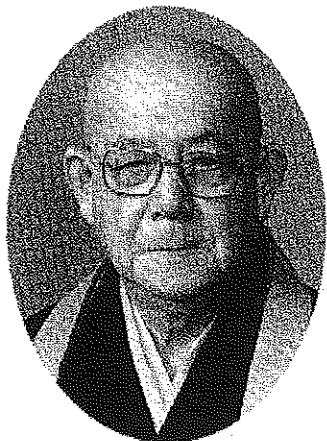
→ 随喜誦唱するブダガヤ各国隣山僧院代表の比丘衆



故・ジャワハルラル・ネルー初代インド共和国首相のフンダガヤを仏教による世界平和の拠点に...との提唱に感え、まず智恵と慈悲深き指導者の育成が急務として釈尊の説かれた自灯明現前の場として、の仏教学東洋学研究所実現への邁進と、智見照覽し冥助の掌をのへ願主の所願を哀愍納受・成就させ給え、と表白する安田映風理事長 ←



# 印度山日本寺第四世竺主 中村康隆猯下ご遷化



ブッダガヤ印度山日本寺の輪番宗務主管「竺主」職として第4世任期にご在任いただいております前浄土門主・総本山知恩院86世門跡の中村康隆猯下が去る5月8日に102歳で御遷化されました。浄土宗と知恩院による御表葬は6月11日午後1時から知恩院御影堂で行われました。

学者として、御高僧としての中村猯下の御令名は改めて申すまでもありませんが、私たちにとっては、平成20年現在の時点で当協会設立世代の最後のお一人であられたばかりでなく、卒論(デュルケム論)執筆のため祐天寺に籠られた学生時代からの縁で後に祐天寺住職そして当協会初代理事長となられる巖谷勝雄師との縁ができ、またそもそもの日本寺建立の発願者のおひとりの初代竺主の葉上照澄比叡山延暦寺長藤大阿闍梨とは、巖谷師と共に葉上大阿闍梨の大正大学教授時代の教え子として、洋々80年

近くを「ブッダガヤに日本仏教超宗派による日本寺建立を」というコンセプトとともに御在命、竺主ご在任のまま「巖谷に頼まれているから」と、ご遷化まで理事をお勤め頂くなど、実際の面でも当協会設立と印度山日本寺の存在そのものと申し上げるべき大先達、大恩師であられました。

尽きせぬ感謝と敬慕の念をお捧げ申し上げますとともに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 故・中村康隆猯下

明治39年4月生まれ。昭和9年大正大学文学部大学院宗教学研究科修了後同学専門部講師、助教授、教授、仏教学部長、学長を経て昭和53年、同学名誉教授。

昭和53年増上寺第85世法主、平成5年浄土門主・総本山知恩院第86世門跡。平成19年1月・門主ご退任のち浄土宗名誉門主、総本山知恩院名誉門跡

学外・宗外では東京都仏教連合会会長、全日本仏教会会長、日韓仏教文化交流協議会会長、日中韓国際仏教交流協議会会長などをご歴任。

印度山日本寺第4世竺主には推戴会議の儀を経て平成13年11月にご就任、ご遷化までご在任頂きました。

## 歴代竺主とその略歴

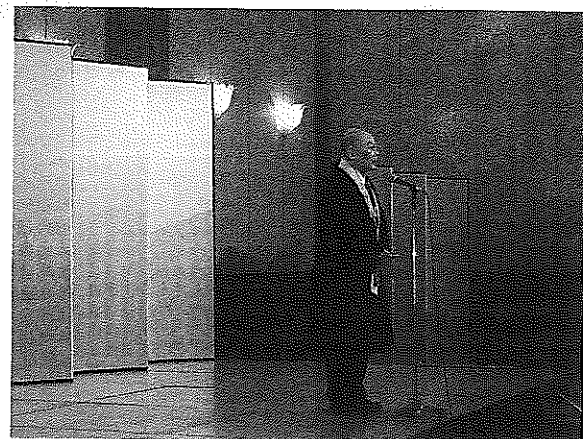
初代：故・葉上照澄竺主。比叡山延暦寺一山東南寺住職、京都梅ノ尾高山寺住職、比叡山延暦寺長藤、滋賀院門跡、世界連邦日本宗教者委員会委員長、(財)仏教伝道協会理事長、(社)日本国際青年文化協会会長、昭和43年の当協会設立時から常務理事重任。

第2世：故・森寛紹竺主。高野山第473世寺務検校執行法印、高野山真言宗管長および総本山金剛峰寺第406世座主。

第3世：故・春見文勝竺主。西宮市・海清寺住職、海清寺僧堂師家、臨済宗妙心寺派管長、(財)全日本仏教会会長。



当財団設立35周年・日本寺開山30周年記念式典で竺主挨拶される中村康隆猯下(京都・全日空ホテル)



同式典で「私は中村猯下の小僧」とスピーチされた前名誉会長・高橋隆天先生は猯下よりお先に...





### 連続シンポジウム「インドは、どこに行くのか」第3回 青山文化村で開催

## 主題 インドは、はたしてカースト社会か

講師に 臼田雅之・東海大学教授

当会主催のシンポジウムは、「インドは、どこに行くのか」の大命題のもと、参加者および聴衆から得た“希望するテーマ”アンケート結果から圧倒的に票数の多かった「カースト」をテーマに連続シンポとしてきた。

周知のように、インドを語る上でカーストは不可欠の項目である。それゆえに希望の多いテーマであった社会通念の底流には“ヴェーダ聖典に根ざしたカーストの伝統と秩序こそがインド社会のすべてを語る”

と説明されてきた従来の学説・俗説の流布範囲の広さ、あるいは学説者の権威が大きな役割をなしてきた。またその深遠不可解さゆえに多くの人々が敬して遠避けてきた感のあるカーストという概念を、『インドは、はたしてカースト社会か?』というよりも『インドは、ほんとうにカースト社会なのですか?』と真っ向から切り込む大胆な講演テーマを立てられた今回の臼田先生の講演論旨は、まさにこの連続シンポジウムのカースト・テーマを締めくくるに相応しく充実した内容のものだった。

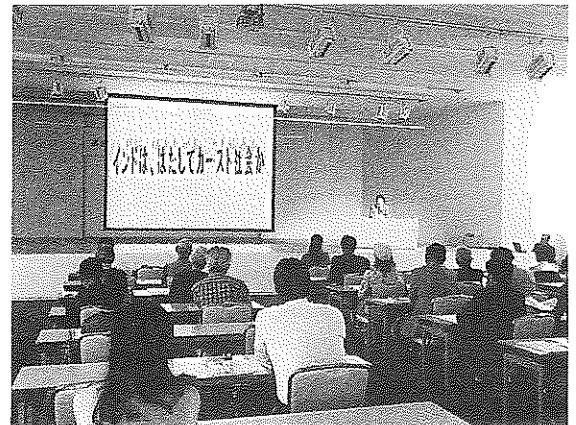
配布したプリント資料とパワーポイントを用いられた講演ながら、先生は講義資料など全く読まれずに講義され、また会場からの質問に逐一丁寧にお答え下さるなど、インド留学と永年のフィールドワークを含む実学者



ならではの迫力に説得力があり、それだけに、広い会場を一杯に埋めた聴衆のうち、実際にインドを知るといふ、かなり多数の聴衆の反応に、「それでも自分はどうしてもインドをカースト社会として見たい」という考えを切り替えられないでいる面持ちが見られた。講演後に殺到した質問票の多さ質問内容の真剣さは、そのあたりの混乱ぶりを如実に物語った。主催者としてはその

盛況活発を喜びたい。

この回をもってカーストテーマはいったん区切りをつけ、今秋開催の次回シンポでは、実社会考察に向かう予定。その他に映画会などカルチャー・プログラムも構想中。乞ご期待!

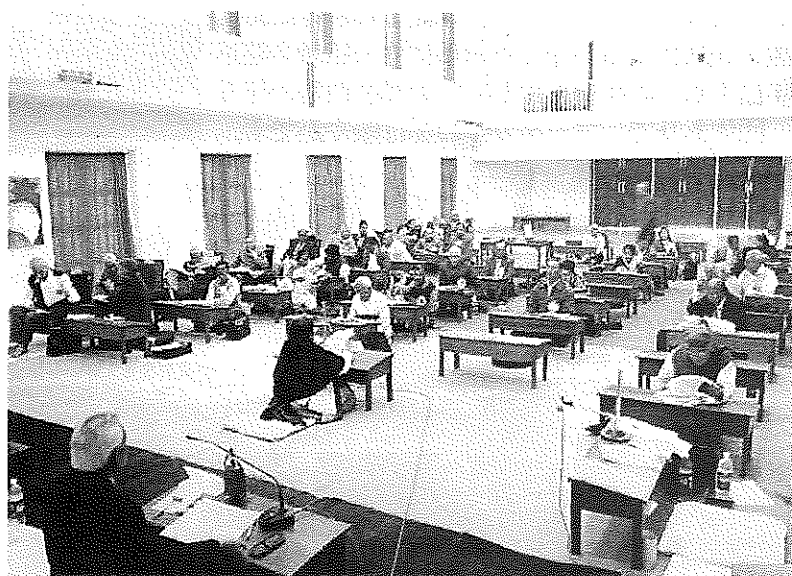


# 「応用仏教?」「カースト仏教?」議論が白熱

## 第33回(日本寺)国際仏教徒結集 テーマ: Applied Buddhismで

毎年次開催され、宗教的出自を問わない学者僧侶が一堂に会して議論できる「インド国内で唯一の定期的で開催される仏教学研究の国際学会」として、いまやインド国内から欧米にまで知られる国際仏教徒結集は、平成19年12月8日と9日のたっぷり2日間の日程で日本寺講堂で開催。インド全国内外から約80人が参加した。今年で33回目を迎えて円熟期に入った学会にふさわしく今次の総合主題は以前から主題候補として人気の高かった Applied Buddhismが: Perspective and Prospectを添えて取り上げられた。

従来の結集が経典解釈を軸足に総じて観念論的に論



じられがちであったのに比べ極めてこんにちのテーマの今次結集は議論白熱、とりわけインド社会に抜き難いヒン

ドゥ・プロテスタンティズムとしての仏教; という概念で「仏教が、いかに現世に益するか」の観点から語られ

ゝるのは些か脱線気味ではあるものの、曰く「仏教と科学」「社会科学」の外衣を着せることで辛うじて学会たりえていたが、「仏教はいかに現実社会を救うか?」が常に前線の風に晒されているインドならではの切実真剣な実り多い結集内容であった。その内容は紀要に編集中心である。



勝手な発言を聴出の調整に汗タジタジなコーディネーター役のA・トウルク教授



# ふたつの光明施療院視察と納経

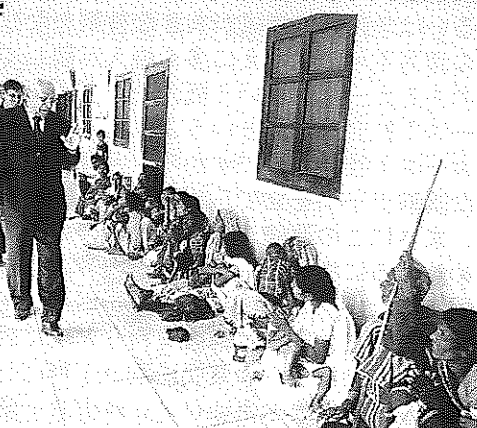
快晴だった昨年11月27日、光明施療院を写経運動基金によって支えて下さっている社団法人・全日本仏教婦人連盟の皆様が、末廣久美副会長を団長に光明施療院視察と日本寺境内に建つ宝篋印塔への納経法会のためブッダガヤ・印度山日本寺に、そして境内に建つ同診療所において頂きまた今年2月19日には、婦人連盟さんと併せ地元ビハール州のR. S ガワイ総督も視察に訪れられました。診療所開院以来24年になりますが、州の最高位官である総督の訪問は初めての事で医師はじめ診療スタッフにとって最大の励みと名誉の一日と大変な感激を与えて下さいました。



光明施療院の診療室を視察するガワイ総督(中央詰襟服サリイ姿は同夫人)と、その右は二四年前に除幕開院式を執行した経緯のあるハリヤナ州のキドワイ総督



←日本寺本堂での納経法要のあとブッダガヤ隣山寺院より法要に随喜の各国比丘・僧侶衆との記念撮影の全日本仏教婦人連盟納経代表団々員の皆さん

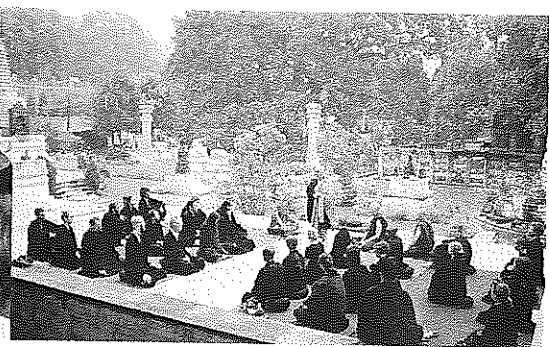


廊下に座って受診の順番を待つ患者たちを励ますキドワイ総督と元・中央政府官房長官のジェイン氏

# 大学分教場として研修場として利用される印度山日本寺

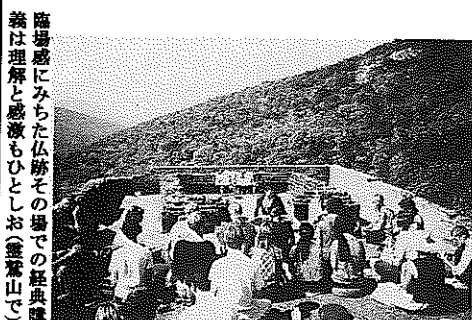
ブッダガヤにはアジア諸国はむろんのこと、現在70ヶ寺におよぶ、およそあらゆる国と民族による異なった伝承に立つ仏教寺院があります。もう20年以上もこの特質を生かしての単位取得の伴う教室とする大学あり、団体ありで、ブッダガヤの冬は賑やかです。

冬季インド学寮として日本寺を利用しているのはアメリカ・オハイオ州のアンティオク大学宗教学科仏教専攻科のロバート研究室。そのほか日本からは立正佼成会さん、真如苑さんなどの団体としての研修のほか、個別寺院さんからの利用申し込みもありました(ここに掲載の写真はアンティオク大学の例です)

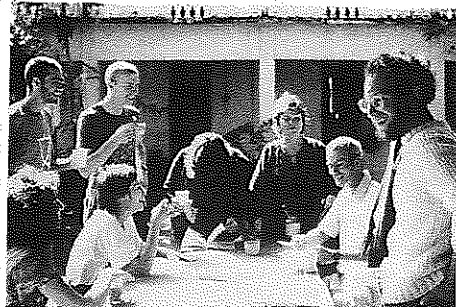


←大菩提寺大塔の菩提樹下でチベット仏教の現象学講義

大塔での2週間の日本仏教史と坐禅実習



臨場感にみちた仏跡その場での經典講義は理解と感激もひとしお(靈鷲山で)



溢れるほどの宗教的環境に囲まれてレポート作成にも議論白熱



今年も「支援ご協力に感謝」と、日本寺駐在僧の高木師に座蒲呈するロバート



# 旅の手帳 自由帳から

日本寺には年間約20万人の参拝者があります。インドの人がもっとも人数が多いのはもちろんですが、とりわけ若い人たちの印象は強いようで、日本寺に置いてある訪問帳(感想ノート)に書き込んで行かれるのはほとんど日本の若者たち。その書き込みの中からプライバシーに触れない「声」の部分、ここに紹介させていただきました。

去年の教育実習で  
思いがけず「倫理」で仏教を  
担当し、それから仏教の哲学に  
感動して、いつか仏教の聖地を訪  
れたいと願っていました。大学卒業  
前にブッダガヤに来ることができ  
て本当にうれしいです。これか  
ら仏教を頼りに。 Thanks to my  
Honey (elderly !)

このブッダガヤに  
来て、心が洗われ  
た気がします。  
またもどってき  
ます。

この図書館はいい本  
がたくさんあるけれど暑  
いので、クーラーを入れ  
て欲しい。



ブッダガヤ、ここは  
落ち着くところです  
先日、日本寺の座  
禅に参加しました。  
デリーでオートリキ  
シヤに100\$ぼら  
れて、デリーに戻っ  
たらそいつを見つけ  
出しリキシヤをボコ  
ボコにしてやるなど  
考えながら座禅をし  
ていました。次は  
ヴァラナシへ向いま  
す。体調をくずし、  
電車の予約もとれず  
ヴァラナシへの道は  
遠い...

遠くインドの地で、これほどたく  
さんの日本の本に出会えるとは思って  
いませんでした。インドにはブッダの足あとを巡る  
ために来ました。今夜と明朝、勤行に参加  
させて頂くつもりです。仏陀が悟りを開いた  
この地で、自分も静かな時間を  
持ちたいと思います。



十日ブリに図書館  
利用させていただきま  
した。SEMもいい人で  
した。仏教の事、前より  
わかるようになってブッダ  
大好きになりました。  
ありがとうございます。

## 旅の健康ノート 医療部・光明施療院より

このごろブッダガヤを訪れる外国人に、あるいは帰国されてからの日本からの旅行者に身体の不調を訴える人たちが増えてきました。そうした様子を光明施療院から見ていると、便利さの裏返しからか、場所が変わる時間の早さに身体がついていけない場合が多いように思われます。どこに飛ぶ空の足もまたブッダガヤへのアクセスも、ひと昔前に比べて格段に便利になったこの頃は、ひときわその傾向が強いです。それがインドだからといって意識過剰になる必要はありませんが、まずそこが外国であると意識することが肝腎です。

第一に、時差の問題です。インドと日本の時差は3時間半。インドで消灯時間の夜10時まで起きていて、それが日本なら夜中の1時半であるのにも関わらず、習慣づいてしまった起床時間が容易に変えられず、日本の5時に起きますと、わずか3時間半しか睡眠をとっていないことになり、その睡眠不足が1週間・10日・2週間と積算されれば、当然に影響はでてきます。時差病に悩まされないためには、出発地の時間で設定されている目的地到着前の正餐(機内食)を食べないことが一番です。

また、乾燥気候への対応と水分代謝への対応。11月から2月までの、朝はセーターを着るほど寒く、昼間でも12℃から18℃あたりを漂う心地よい気温に触れていると、汗の出が見えないため、つつい水分の補給を怠り勝ちですが、インドの気候の殆どは大陸性で乾燥しているため、むしろ日本に居るとき以上に汗が出ているということ意識していなければなりませんし、モンスーン季や海岸部での比較的湿度の高い環境であっても、北回帰線の真上から照らす太陽の直射は、むしろ湿度が呼び水となり汗の出を助長して、身体の水分代謝の条件としては乾燥気候の中にいるときと殆ど変わりません。

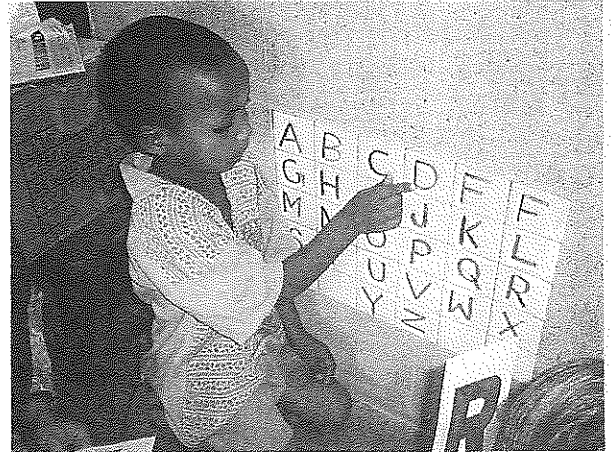
しかし「だから、水をガブガブ飲んで」とは一概に言えないのです。腎臓機能や血圧・心臓に問題のある人に無鉄砲な水分補給は危険ですし、過剰な水分補給によるカリウム不足も考慮しなければなりません。

過剰に神経質になっては旅の楽しみも半減ですが、体調を崩してはせっかくの旅も台無しです。ふだんと異なる日常が続く旅行中の、とかく体調を崩し勝ちな落とし穴とその対応について、順次掲載を続けて参ります。(以下次号へ)



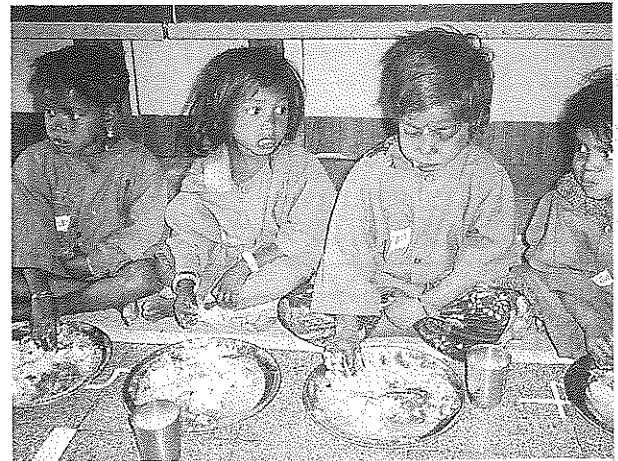
# 菩提樹学園 年間ペアレントの皆様へに記念品を発送 ヒューマン・サポート・プログラム

当協会では印度山日本寺の宗教福祉事業を支援して頂く運動「ヒューマン・サポート・プログラム」を実施していますが、そのうち無料保育施設「菩提樹学園」の園児ひとりひとりを支えていただく「年間ペアレントメンバー」会員を卒園までの3年間(3回)お続け頂いたペアレントの方々に対し、無事卒園までを支えて頂いた感謝のしるしとして、記念品をお送りさせて頂きました。



## 記念品拝呈メンバー

- |            |         |
|------------|---------|
| 東京都江戸川区    | 堀江紀代子 様 |
| 京都市中京区     | 壬生寺 様   |
| 東京都目黒区     | 岡田カヨ子 様 |
| 栃木県佐野市     | 小林龍雄 様  |
| 神奈川県横浜市中区  | 横山敏明 様  |
| 栃木県矢板市     | 岡本英代 様  |
|            |         |
| 東京都江戸川区    | 杉田光寿 様  |
| 神奈川県川崎市麻生区 | 熊坂 正 様  |
| 東京都江東区     | 正本乗光 様  |
| 栃木県矢板市     | 岡本英代 様  |



ありがとうございました。おかげさまで無事、健康に卒園させて頂くことができました。



## ヒューマン・サポート・プログラムとは こういうプログラムです

### 菩提樹学園サポートプログラム

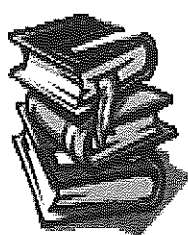
- ◎一人の園児を1年間サポートする  
年間ペアレントメンバー(年会費10,000円)
- ◎一日の給食をサポートする  
一日給食スポンサー(1日分3,000円)

「年間ペアレントメンバー」を三年間(3回)続けて下さると、一人の園児の卒園までのペアレントになり、園からペアレントにも卒園記念品を贈呈させて頂きます。

### 光明施療院サポートプログラム

- ◎一日分の診療スポンサーになって頂く  
一日診療奉仕の会員(年会費10,000円)
- ◎一人の薬代をスポンサーする  
一人投薬サポーター(1口1,000円)

「一日診療奉仕の会」会員を三年間(3回)ご継続くださった方には、現地で心をこめて制作した記念品を贈呈させて頂きます



# 知のオアシス 日本寺図書館



## 聖徳太子会・森会長様御遺蔵書を発端に

大阪市天王寺区で、聖徳太子会を主宰して居られた森禮三様の御遺蔵の仏教関係の書籍を、奥様から御寄贈いただきました。この、森文庫を主体に、仏教研究図書館としてスタートしました。

お送りしていた日本寺寺報の『日本寺に図書をお寄せ下さい』という記事をきっかけにしての寄贈のお申し出でございました。

インドの学者にこの経緯を話すと「大変嬉しい事で、これが発展して、やがて日本寺にインドで唯一の仏教関係専門の図書館が出来るともかもしれない。」と語られていた事が、より図書館開設の思いを強くさせました。

日本寺に付属する図書室そのものは、日本寺の宿泊施設「国際仏教徒会館」が完成された時から始まり、そこへ徐々に寄贈本が寄せられて今日に至っています。蔵書の多くは日本語ですが、最近は日本語に何の支障もない欧米人やインド人も少なくなく、本というものの国際性を改めて認識させられるとともに、ブッダガヤという土地が仏教や思想性への思いをひときわ強くさせているようです。

## 一般図書館として巡礼者の憩いにも

仏教図書館とはいいいながらも、仏教専門図書ばかりが置かれているわけではありません。

もともとが、旅行者の遺留図書から始まりましたから、小説や旅行案書などジャンルも多岐にわたりますが、「仏教図書なら日本寺へ行け」と言われるようになるよう希望し、この方向に進めたいと考えています。(現在の読者人気 No.1 は手塚治虫作「ブッダ」です)

また、インドを旅する人たちは、インドの環境に触れてはじめて宗教の門を叩くこともあります。そしてこの図書館を訪れて日本では手にしないであろう仏教の啓蒙書や案内書をさかんに読んでいます。そういう意味でも様々な形態の仏教書や資料の充実を図っていきたいと思います。

世交代などを機に仏教書籍典籍等を整理される折には、日本寺図書館に寄贈のご高配を下さいます。

## 仏教発祥の聖地・世界遺産のインド・ブッダガヤを護持する仏教NGO

印度山日本寺/財団法人・国際仏教興隆協会はインドでこういう事業をしています

### 宗教福祉事業

- ①園児約200人の無料保育施設「菩提樹学園」
- ②毎日約300人の患者への無料医療施設「光明施療院」
- ③困難に遭遇したブッダガヤ巡礼者の保護

### 学術文化事業

- ①インド内外から僧侶・学者・仏教研究者を招いての仏教研究国際シンポジウム「国際仏教徒結集」の毎年開催と紀要の刊行と関係各方面への贈本。
- ②ブッダガヤで初めての大蔵経所蔵と研究者への閲覧供与を目指しての「仏教研究図書館」開設努力。(経律論書・全4800巻を揃えた図書館はシッキムの首都ガントックのナムギャル研究所のみです)
- ③仏教研究者への滞在施設の提供(国際仏教会館)
- ④仏教専攻の欧米大学ゼミへの単位講義と座禅指導…など

### 公益社会事業

- ①ブッダガヤ巡礼者への宿坊提供(国際仏教会館)
- ②国際寺院特別区ブッダガヤ所在の計70の国と地域が主宰する各国寺院で構成する International Buddhist Council (国際仏教徒評議会)の主幹会員寺院として仏教解釈の国際協議とブッダガヤ護持のための知的国際協力と応分の資金ならびに役割負担

### その資金は、皆様からの次のような寄付金です

- ☆ 篤志志納金 ☆ 協会護持委員(会費)
- ☆ 菩提樹学園年間ペアレントメンバー (H. S. P)
- ☆ 菩提樹学園一日給食スポンサー (H. S. P)
- ☆ 光明施療院「一日診療奉仕の会」(H. S. P)
- ☆ 光明施療院一人投薬サポーター (H. S. P)
- ☆ 日本寺欄楯石柱(大・小)記名志納
- ☆ 日本寺開山30周年補修當繕寄付金
- ☆ 宿坊宿泊志納金 ☆ 指定寄付



### 事務局報告

#### 協会弔報 (ご尊称略)

- 新井慧譽師 (参与) 平成19年1月 9日 ご遷化
- 大田秀三師 (顧問) 1月 19日 ご遷化
- 足利正明師 (評議員) 3月 12日 ご遷化
- 砂原圓讓師 (元参与) 9月 22日 ご遷化
- 岩脇宏信師 (参与) 12月 30日 ご遷化
- 宮崎奕保師 (参与) 平成20年 1月 5日 ご遷化
- 和久北龍師 (元駐在僧) 1月 25日 ご遷化
- 中村康隆師 (理事・竺主) 5月 8日 ご遷化

謹んでご冥福をお祈りいたします

#### お願い!

##### 御不要蔵書のご寄贈をお願いします

御蔵書がご不要となられた節には印度山日本寺付属図書館への御寄贈をお願い致します。仏教書を中心にジャンルを問わないインドでの熱心な日本学習熟に応えるために役立てさせていただきます。

(連絡先・(財)国際仏教興隆協会事務局 TEL:03-3711-7608

#### 本部事務報告:抄(主な行事催事関係のみ:担当者・出席者名等省略)

##### 平成19年後期

- 10月 5日:連続シンポジウム「インドはどこに行くのか/インドははたしてカースト社会か?」開催・青山文化村(梅窓院祖師堂)/講師:白田雅之東海大教授
- 11月 8日:文化庁主催「公益法人改革に関する説明会」(駒場エミナース)
- 12日:印度山日本寺第三次事業実行委員会・最終案成立と記者会見(増上寺会館)
- 17日:WFB事務総長Phalopp Thairry氏来訪、翌年2月の仏教学東洋学研究所定礎式法要へのWFB関与関連打合せ
- 19日:(財)全日本仏教徒会議神奈川大会:~20日(パシフィコ横浜)出席

##### 平成20年前期

- 1月 7日:平田精耕・臨済宗天竜寺派管長ご遷化
- 17日:(社)日本仏教保育協会新年会(ザ・プリンス・パークタワー)
- 22日:(財)全日本仏教会WFB大会部会(増上寺会館)
- 2月 6日:(社)全日本仏教婦人連盟修正会(東京プリンスホテル)
- 3月13日:第87回理事・監事会および第85回評議員会開催(増上寺会館)
- 4月 1日:塩川正十郎名誉会長就任
- 5月27日:第88回理事・監事会および第86回評議員会開催(増上寺会館)
- 6月11日:故・中村康隆竺主表葬儀(知恩院・御影堂)

#### インド;ブッダガヤ印度山日本寺事務報告:抄

##### 2007年

- 5月 6日:境内に迷い込んだ狂犬病発症の野犬を捕獲
- 26日:ブッダガヤ・パンチャヤット(地域評議員=公職=会)選挙
- 7月 6日:ダライラマ誕生会(ブッダガヤ・チベット・ゲルク派寺主催)
- 10月 9日:米国オハイオ州アンティオク大学・日本寺坐禅研修スタート(~24日)
- 11月18日:チベット仏教ゾンカル・チョデン僧院収蔵品展覧会  
:大菩提会へのタイ仏教徒によるローマ字表記パーリ語三蔵經典奉納式
- 21日:大乘教ブッダガヤ大仏開眼20周年記念法要
- 12月 1日:中央仏教学院(浄土真宗)研修団来山

##### 2008年

- 1月 9日:菩提樹学園始業式
- 27日:国際臨済禅交流協会・ハワイ臨済禅ミッションによる第2回坐禅コース開講(~2月7日まで。指導=ハワイ臨済禅ミッション/山口良三和尚)
- 2月19日:印度山日本寺附属・仏教学東洋学研究所定礎石奉安法要
- 3月24日:立正校成会・教会長研修法座

#### ブッダガヤ・ニュースBodh Gaya Samachar 2008

- 1月 2日:ブッダガヤ地区コミッショナーが「中央政府よりの命令により、大菩提寺大塔から500m以内に存在する建築後50年未満の建造物は全て撤去せよ」との命令が出た。撤去費用は自己負担と定められている」と発表。これに地元商業会やホテル協会が反発。「命令文書を公開せよ」と迫るも応じられず混乱が始まり、1月15日を期してのデモ行進を呼びかけ、大勢の民衆が応じる
- 2月20日:前正覚山の龍王勸請窟に安置の「前正覚山慈母観音」として礼拝されていた菩薩像が破壊される。地元民の証言は「ネオ・ブッディスト(インド新仏教徒の仕業だった)」
- 2月16日:インド共和国大統領プラティバ・パテル女史の大菩提寺大塔訪問に際して、官民合同歓迎委員会が制作した歓迎ポスターに大統領と州首相の写真の足元に仏陀像がデザイン配置されていた「不敬」に抗議して、大塔での大統領歓迎法要に駆り出された隣山寺院比丘僧侶が一言も発せず奏楽もない無言法要で抵抗。
- 3月28日:州首相ニティンシュク・クマール氏が州政府で開催された「ブッダガヤ都市開発委員会」で、『ブッダガヤの都市開発には住民の反対が強く、経済的・政治的にも難問が多すぎるため中央政府に修正を求めたい』と証言。
- 5月19日:ブッダガヤ大菩提寺大塔を運営管理する政府機関「大塔管理委員会」の新メンバー発令。州首相主導で異例

#### ブッダガヤ印度山日本寺駐在員紹介



今のインド、そしてブッダガヤの地元ビハール州では何ぞ?

#### インド・ビハールの情報クリップ

##### インド・ニュース/ビハール州・ニュース

- 4月1日:コンピューター化や銀行ATM(現金受払機)設置でインド準備銀行(reserve Bank of India)に大幅な遅れをとり、顧客数の減少が著しかったインド銀行(Bank of India)が大胆な電算機化に踏み切り、運用開始。しかし1支店1行員に限ったコンピューター操作トレーニングが銀行業務的にも習熟度でも追いつかず大混乱。すでにコンピューター振込みやATMで安定した実績をもつインド準備銀行への大幅な遅れが明白に。



世界文化遺産ブッダガヤ大菩提寺を護る仏教NGO

印度山日本寺は、仏教寺院としての宗教行為のほか、次のような事業をしています。

**The International Buddhist Brotherhood Association (IBBA)**

KOKUSAI BUKKYO KORYU KYOKAI in Japanese, the owning body of INDOSAN NIPPONJI (Japanese Temple) Bodh Gaya, was established in 1968, as the synthetic society of all Japanese Buddhist Sect and Schools.

It is registered to the Ministry of Education, Government of Japan, as Juridical Foundation, and its sister society IBBA of INDIA was registered to the Government of Bihar in 1986 under the Society registration Act of India 1860 with the aim and form of religious welfare foundation of organizing its activities.

**INDOSAN NIPPONJI (Japanese Temple)**

was completed in 1973, and was formally inaugurated by His Excellency Sri V.V. Giri, the then President of India in December 1973.

**The BODAIJU GAKUEN**

Kindergarten attached to Japanese Temple was started functioning from 15th September 1977 on the trial basis with forty children. This kindergarten is a gift from the children and their parents of All Japan Buddhist Nursery and Kindergarten Association to Indian Children. It trains 208 children in three years course from age 3 to 5. Well experienced 8 teachers are giving nursery pre-school education, such as language, music and rhythm, paper work, painting, manual arts, and so on. Children have facility of medical check, uniforms, educational materials, lunch and milk, and other necessities. Those are all provided by Japanese Temple in free.

**KOMYO FREE MEDICAL CENTRE**

Called in Japanese, is a charitable dispensary, which runs on regular basis with all Indian staff and equipment. This dispensary building was donated by All Japan Buddhist Women's Association in 1984. And the activities of free medical services for the local needy had been offered by IBBA and some volunteers since its settlement here at Bodh Gaya in 1970s ever since.

Now, on every working day more than 250 patients come and take medical treatment with free medicines, and education about importance of the precaution against the ill which is the most essential task for the both patients and medical staff.

**International Buddhist Conference**

This conference is another activity of IBBA which organizing an annual International symposium of the subject on Buddhism started at December 1975 and continuously held till present.

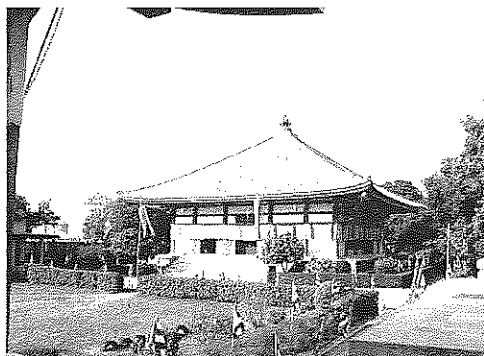
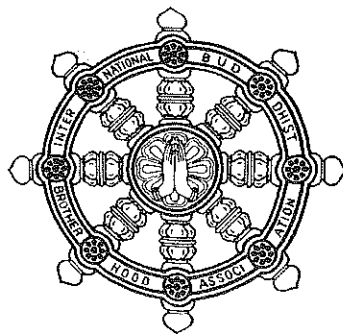
In fact we believe these three activities in Education, Medicine, Academic are three treasures TRIRATNA we believe in India.



# 印度山日本寺

**INDOSAN NIPPONJI  
JAPANESE TEMPLE BODHGAYA**

P.O, Bodh Gaya, Dist:Gaya,  
Bihar State, India.



当寺は、1947年に独立を果たしたインド連邦共和国初代首相J.ネルー氏による「釈尊ご成道の聖地ブッダガヤに国際仏教社会を建設し、数次の世界戦争を経験してきた人類の末永い国際融和と平和の拠点としよう」との提議の推進を決議したインド政府による各国への呼びかけに応じて、日本仏教諸宗派ならびに各総大本山が超宗派で結成した財団法人・国際仏教興隆協会によって1973年に建立され運営されている超宗派のお寺で、宗務管理者は各宗派輪番制となっています。

**INDOSANNIPPONJI;**

The Japanese Temple Bodh Gaya, was established and organizing by International Buddhist Brotherhood Association Japan, an United Buddhist Mission of Japanese Traditional Buddhism.

**主な年中行事 STAPLE ANNUAL PUJA**

- January-1st 修正会 SHUJO-E
- February-2nd 涅槃会 NEHAN-E
- April-8th 降誕会 KOHTAN-E
- Vesak Full moon day BUDDHA JAYANTI
- December-8th 国際成道会 JODOH-E & 国際仏教徒結集 & International Buddhist Conference.
- December-31st 大晦日除夜 OHMISOKA

\*\*\*\*\*

**朝課(Daily Morning Service)**

夏季 AM:05~(APR-OCT)  
冬季 AM:06~(NOV-MAR)

**晩課(Daily Evening Service)**

通年 PM.5~& Meditation (ZAZEN) time

**宗教福祉事業**

- ①園児200人余りへの無料保育施設「菩提樹学園」
- ②毎日300人の患者への無料医療施設「光明施療院」
- ③困難に遭遇したブッダガヤ巡礼者の保護

**学術文化事業**

- ①インド内外から僧侶・学者・仏教研究者を招いての仏教学研究国際シンポジウム「国際仏教徒結集」の毎年開催と論文紀要の刊行
- ②ブッダガヤで初めての大蔵経所蔵と研究者への閲覧供与を目指しての「仏教学研究図書館」開設準備(インドで経律論書・全4800巻を揃えた図書館はシッキムの首府ガントックのナムギャル研究所のみです)
- ③仏教研究者への滞在施設の提供
- ④仏教専攻の欧米大学ゼミへの単位講義と座禅指導

**公益社会事業**

- ①ブッダガヤ巡礼者への宿坊提供(国際仏教会館=所属寺院ないし宗派よりの紹介に基づきます)
- ②国際仏教寺院特別区ブッダガヤ所在の計70カ国の国と地域が主宰する各国寺院で構成する国際仏教徒評議会(International Buddhist Council)の主幹寺院として、仏教解釈の国際協議と、ユネスコ登録・世界文化遺産のブッダガヤ大菩提寺(Bodhgaya Mahabodhi Stupa)護持への知的国際協力と応分の資金ならびに役割分担

**日本寺簡単ガイド**

- ☆純日本様式の本堂建設は柳松井建設により設計・施工されました。
- ☆本堂外陣ぐるりに描かれた壁画は仏伝(お釈迦様の一代記)図で、日本画家・岩崎巴人画伯の筆による寄進です。
- ☆本堂格天井の花鳥風月の天井画は、石田豪澄画伯の筆になり、同じく寄進によるものです。
- ☆本堂内陣正面のカンバス壁画は、スリランカの画僧として高名なヴィマラワンサ大上座長老比丘の筆による寄進画です。
- ☆大梵鐘は松下幸之助氏の寄進です。

〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-24-53  
財団法人 国際仏教興隆協会  
TEL:03-3711-7608  
FAX:03-3711-7673  
e-mail : ibba@nifty.com